



健全な水と環境を次世代に引き継ぐ

---

The background of the lower half of the slide is a photograph of a large, mature tree with dense green foliage, viewed from a low angle looking up. The text is overlaid on this image.

2021年12月期  
**決算説明会**

# 目次



01 事業概要

02 2021年12月期決算概要

03 事業方針

04 業績見通しと中期経営計画

05 技術紹介  
調査点検用ドローンのご紹介

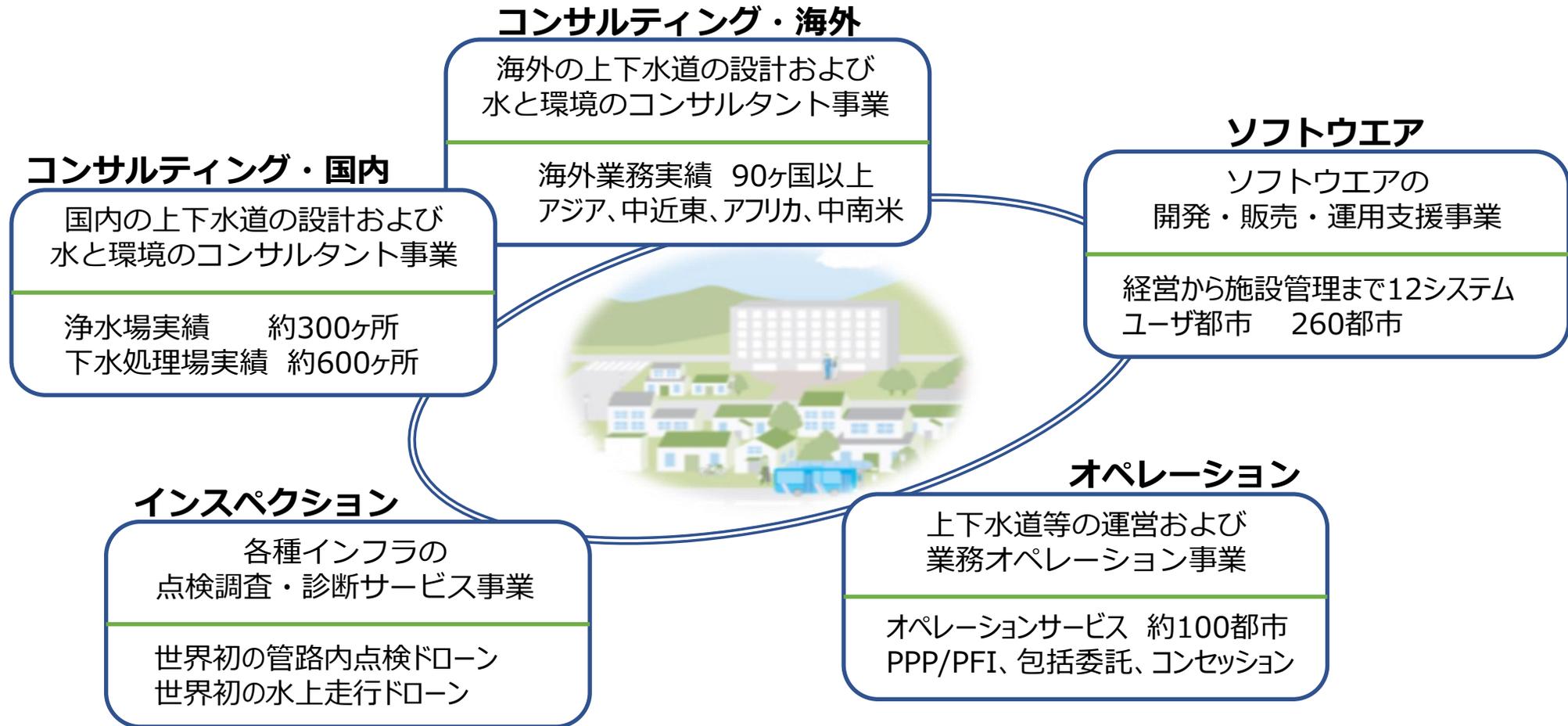
## 会社概要

(2021年12月31日現在)

設立	1951年9月3日（創業71年）
代表者	代表取締役社長 村上 雅亮
事業所	本社 東京都港区芝浦1-1-1 国内64ヶ所 海外7ヶ所 （プロジェクトオフィスを除く）
上場市場	東証一部（証券コード2325）
資本金	5億2,000万円
従業員数	連結934人 単体556人
事業内容	上下水道等のインフラに関する コンサルティング等技術サービス

## NJSのパーパス





インフラの  
老朽化

健全なインフラの維持

自然災害の  
激化

災害に強いまちづくり

脱炭素社会  
の構築

温室効果ガスの削減

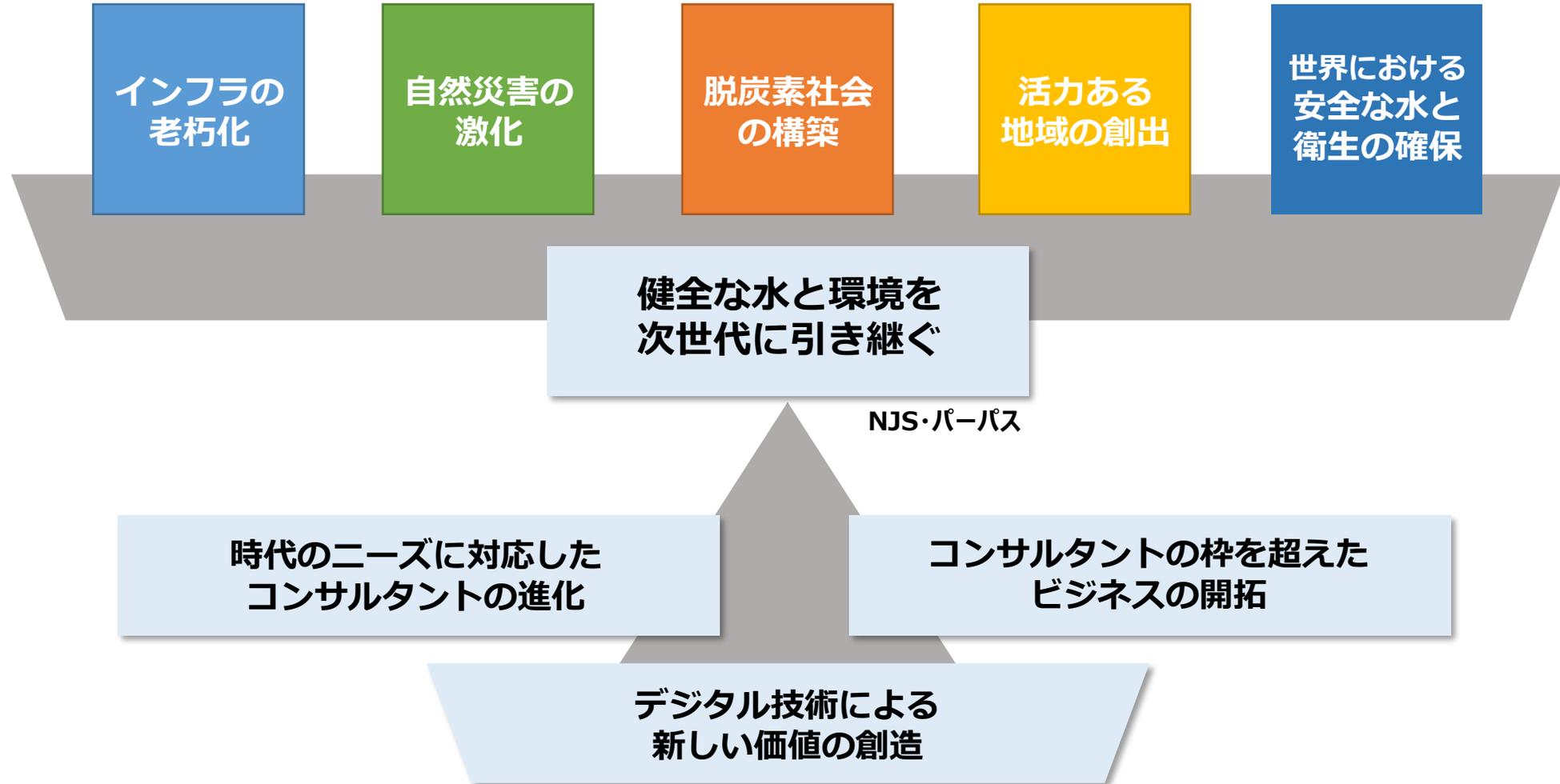
活力ある  
地域の創出

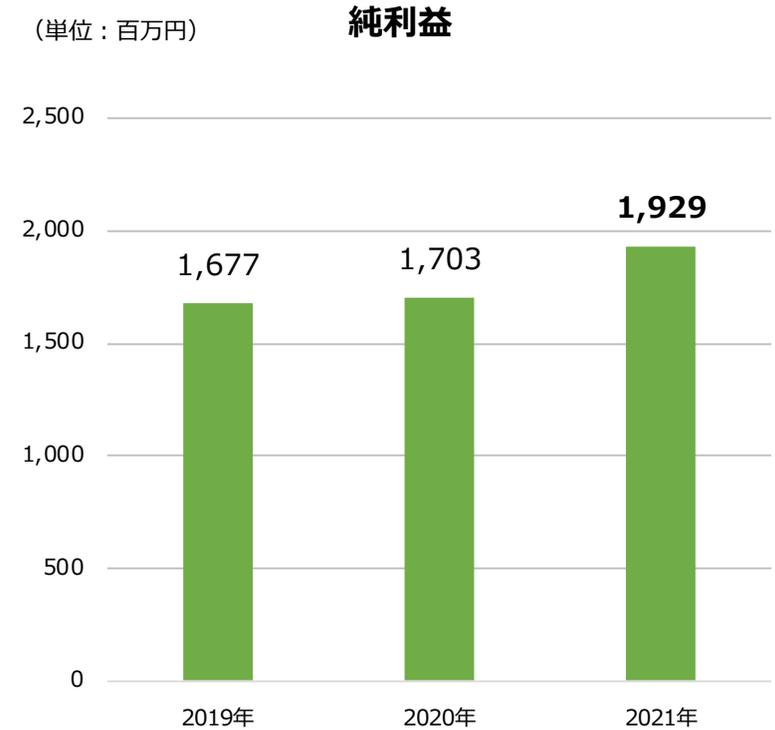
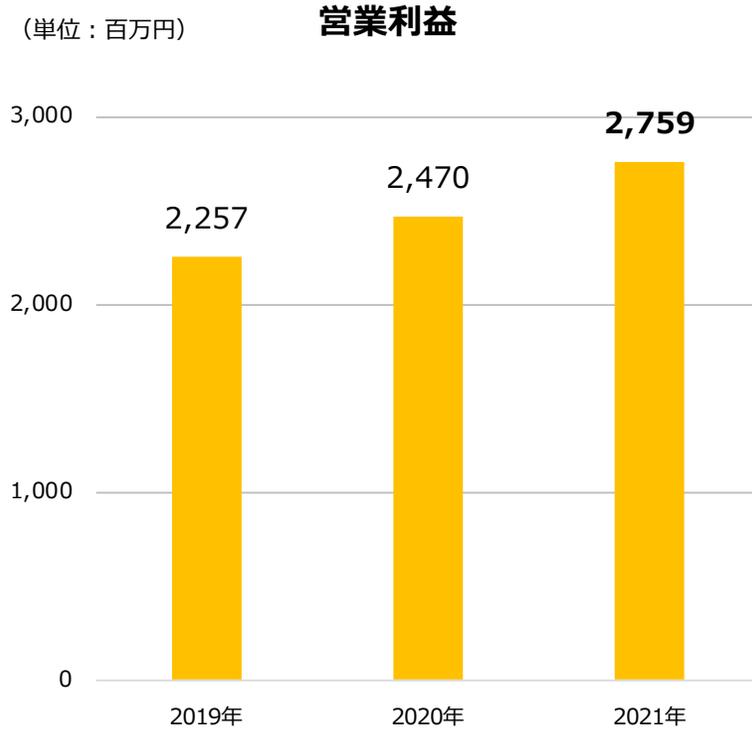
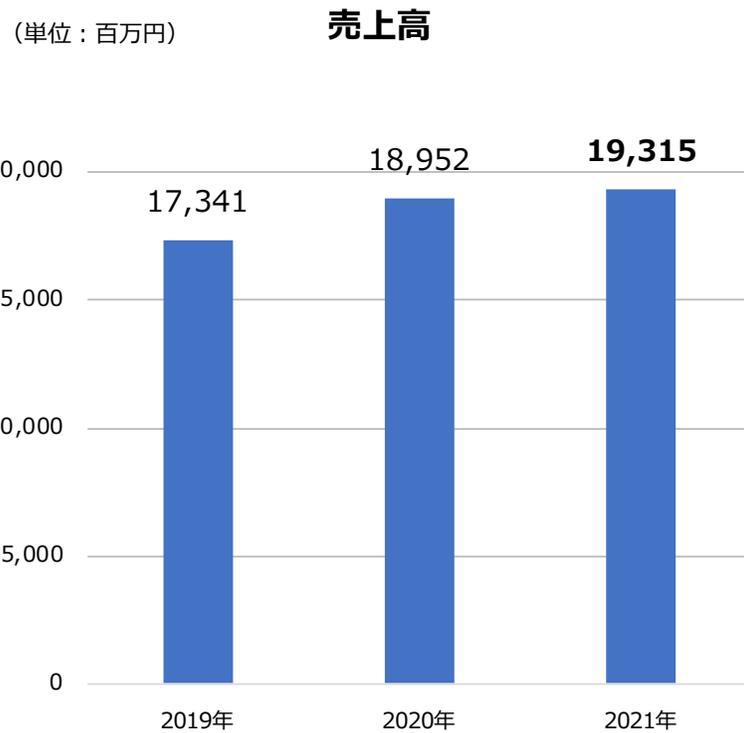
持続可能な地域の形成

世界における  
安全な水と  
衛生の確保

世界の水不足に対応





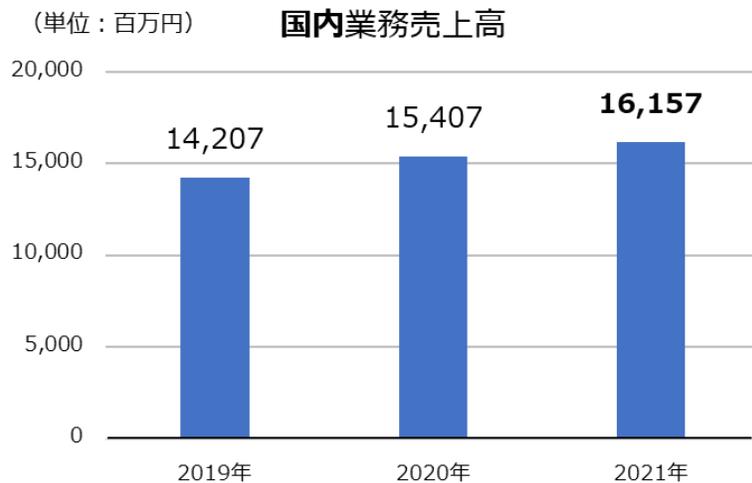


売上高は上下水道施設の更新設計、災害対策業務、オペレーション関連業務の拡大により**前期比・公表済見通し比プラス**  
純利益は、国内業務の生産性向上や海外プロジェクトの利益率改善の取り組みにより**最高益を更新**した。

## 国内業務

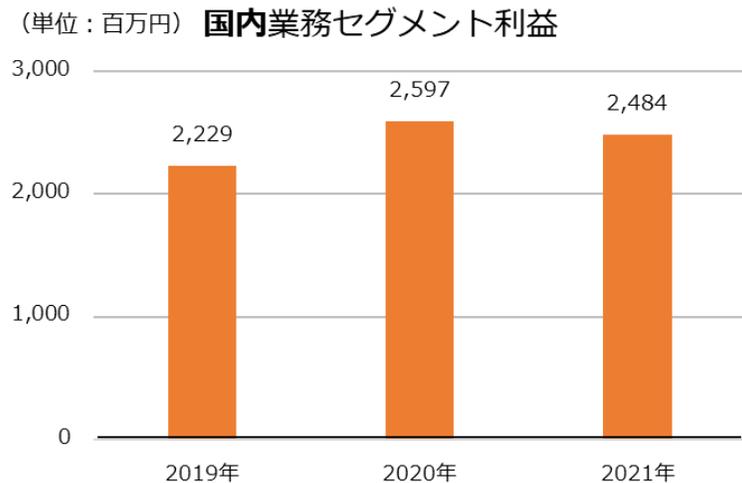
## 【売上高】

施設更新業務、災害対策、オペレーション業務が業績をけん引



## 【セグメント利益】

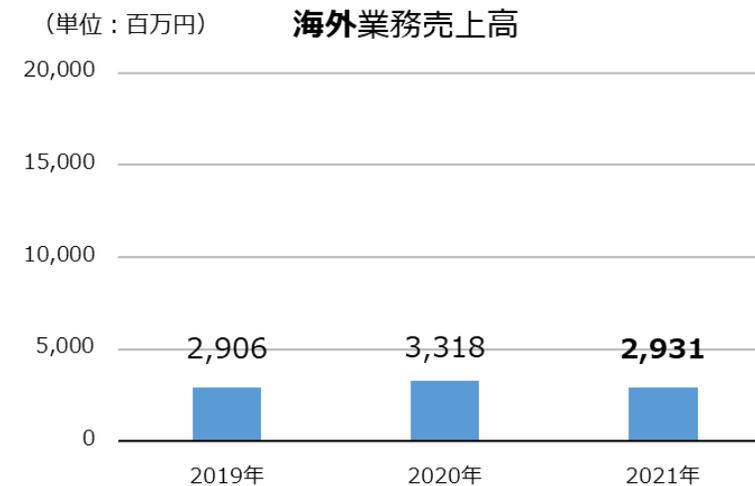
新事業投資費用によりセグメント利益は微減



## 海外業務

## 【売上高】

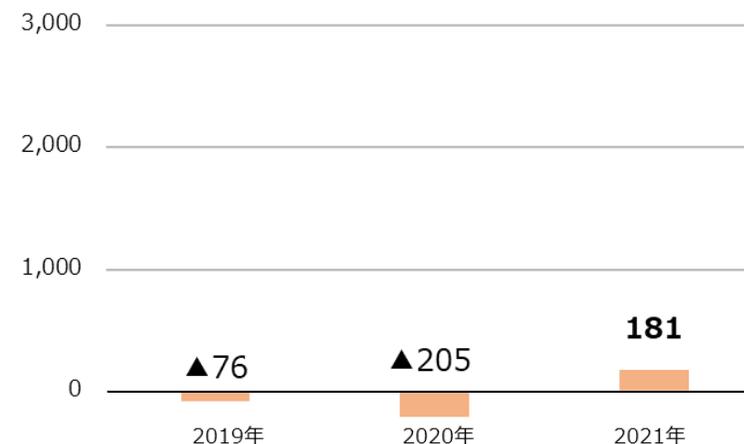
イラク・バングラデシュ等における大型案件、インド子会社堅調に推移一方で、コロナ禍の渡航制限等を受け売上は減少

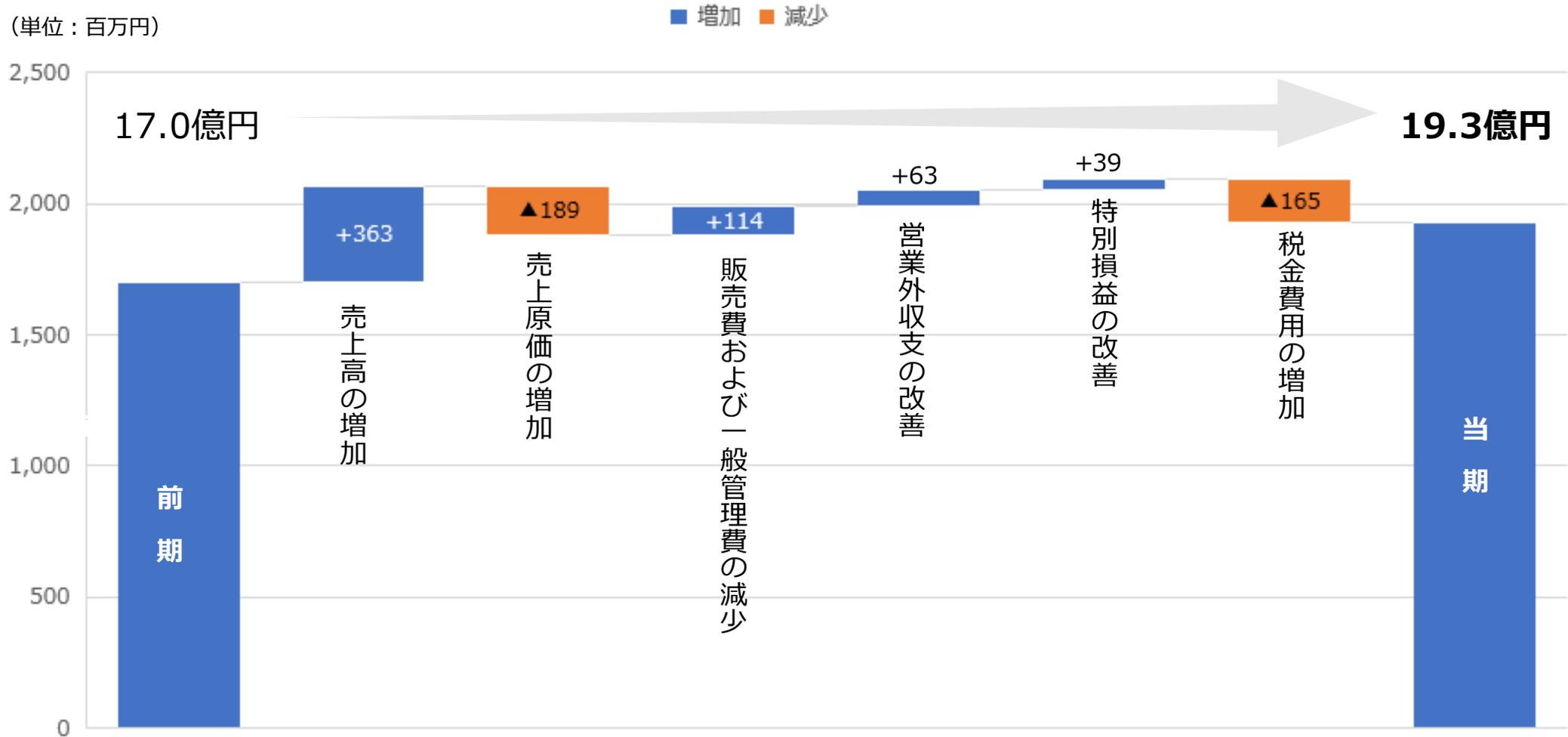


## 【セグメント利益】

プロジェクト管理強化による採算性向上  
NJSコンサルタンツの合併による事業効率化等によりセグメント利益は大幅改善

## (単位：百万円) 海外業務セグメント利益





売上高の増加と販売費及び一般管理費の減少が過去最高益の達成に貢献

## インフラの老朽化が進行

- ・水道管74万Km、老朽管13万Km
  - ・下水管49万Km、老朽管2.5万Km
- これから老朽化インフラが急増する



(国土交通省HPより [https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewage/crd\\_sewage\\_tk\\_000135.html](https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewage/crd_sewage_tk_000135.html))

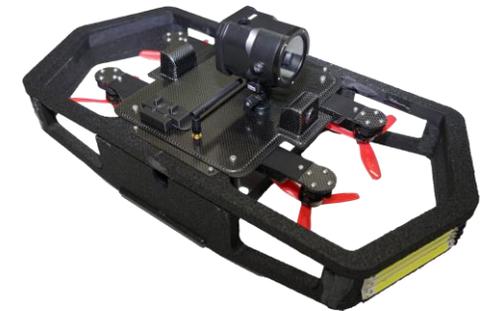
## 人手不足と予算不足で対策が進まず

- ・人手不足で老朽化インフラの調査が進まない
- ・予算不足で改築更新事業が進まない

## インスペクション事業の推進

### 革新的技術による調査の効率化と精度向上

- ・管路調査ドローン：エアースライダー
- ・水上走行ドローン：ウオータースライダー
- ・水位等計測発信システム  
：スカイマンホール
- ・設備機器異常検知システム  
：コネクテッドコレクター

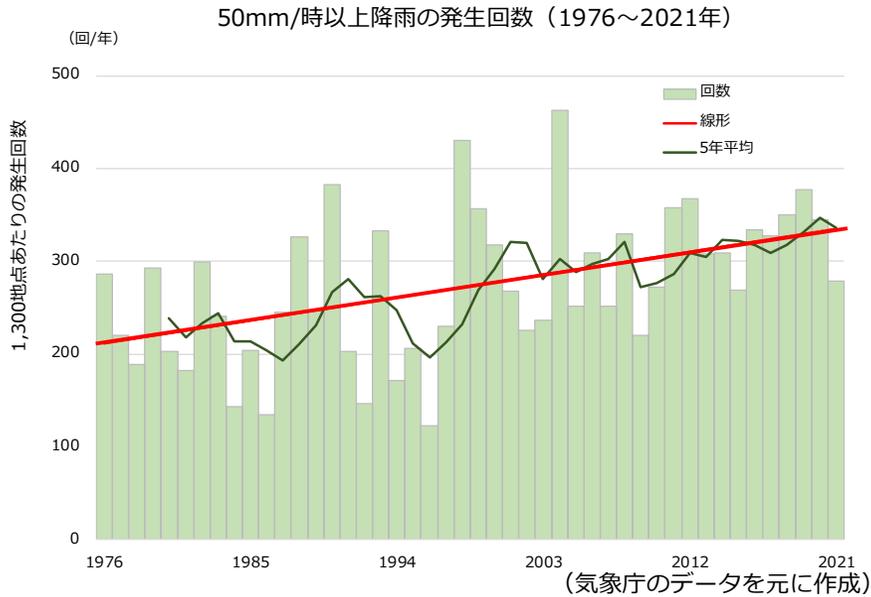


### デジタル技術によるインフラ管理の最適化

- ・施設情報システム：スカイスクレーパーFC
- ・管路情報システム：スカイスクレーパーPL
- ・AIによる劣化診断システム：スカイスクレーパーCV
- ・リモートモニタリングシステム：スカイスクレーパーEM

## 自然災害の激化・頻発化が進行

- ・気候変動に伴う豪雨災害が増加  
強い雨が頻繁に降るようになっている
- ・南海トラフ地震は40年以内に90%の確率で発生

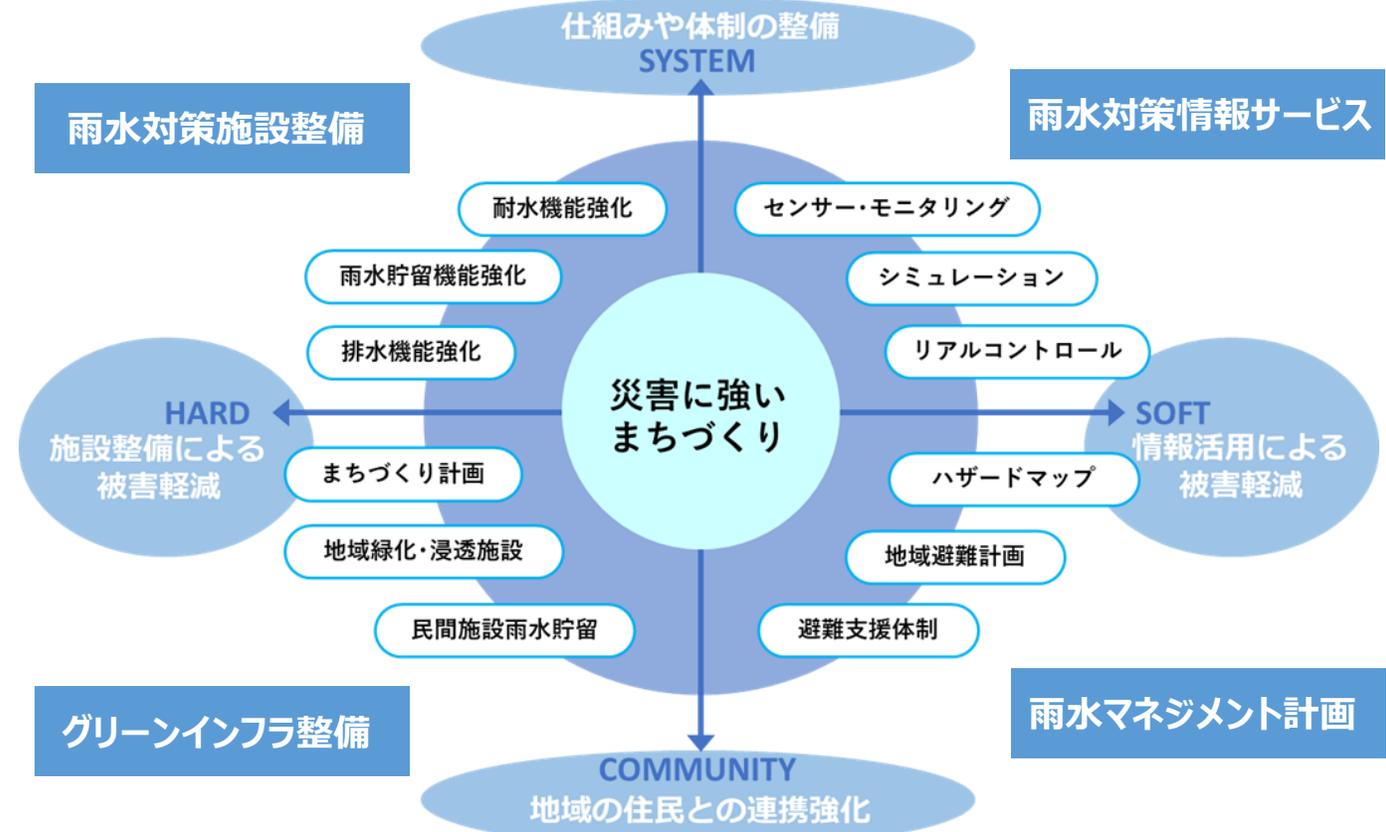


## ハードとソフトを組み合わせた効果的対策

- ・被災シミュレーション、防災・減災対策
- ・被災時対策、復旧・復興対策

## 雨水対策・地震対策事業の推進

### 雨水マネジメント事業の推進



## 老朽化対策と一体で地震対策事業を推進

## 地球温暖化の影響が顕在化

- ・世界の平均気温は既に1.09度上昇している
- ・気候変動に伴う熱波、干ばつ、大雨が増加している
- ・IPCCは温暖化の原因は人間の活動が原因と断定

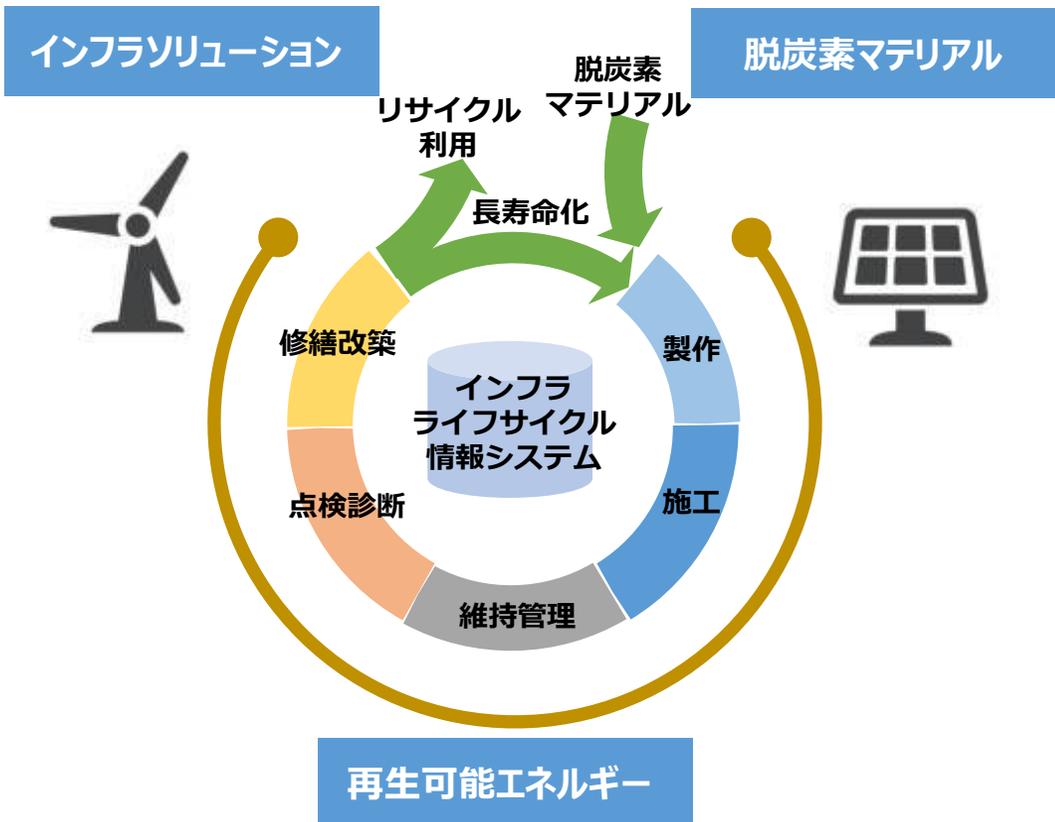


## COP26による温暖化抑制の合意

- ・平均気温の上昇を1.5度以内にすることを合意
- ・日本は、2050年カーボンニュートラル、2030年温室効果ガス2013年比46%削減とを表明

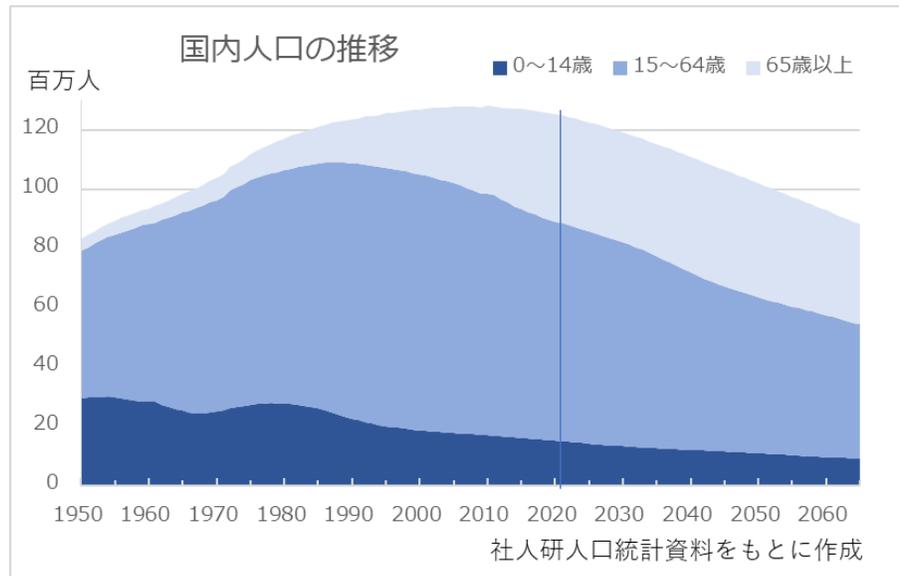
## カーボンニュートラル事業の推進

- ・循環型社会を推進するインフラソリューション
- ・地域条件を生かした再生可能エネルギー
- ・脱炭素マテリアルの開発と活用



## 人口減少と少子高齢化が進行

- ・地方における人口減少と高齢化が加速
- ・インフラの維持管理が困難
- ・生活環境の質低下



## 持続可能な地域形成の必要

- ・リスクの高い一極集中から多極分散へ
- ・地域の資源を生かした安全で豊かな社会の創造
- ・地域における効率的な再生可能エネルギーの活用

## オペレーション事業の推進

### 地域のインフラマネジメントを推進

- ・デジタル技術による業務の効率化
- ・複数事業を束ねるバンドリングの推進

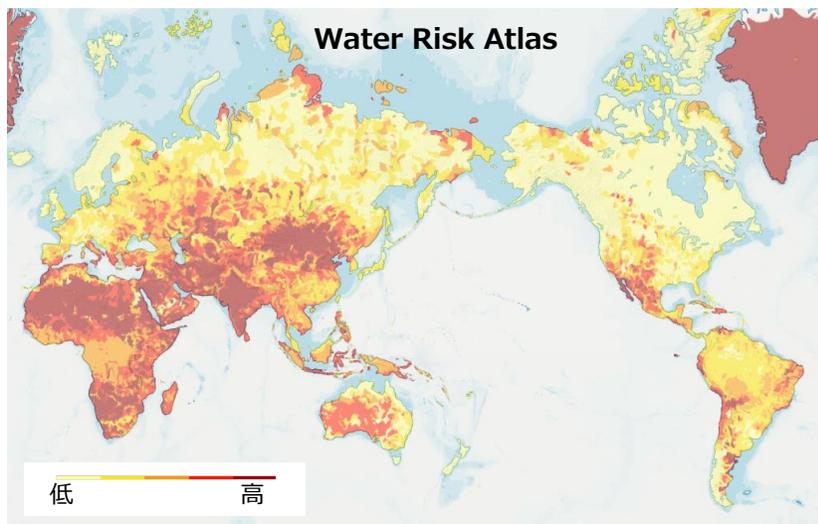


### 脱炭素と循環型社会を推進

- ・地域条件を生かした再生可能エネルギー事業を推進
- ・地域資源を生かした地産地消事業を推進

### 世界で進行する水不足

- ・人口増加や気候変動の影響により水不足が深刻化
- ・2025年には48ヶ国28億人が水不足にさらされる
- ・水不足は食糧不足や衛生環境の悪化につながる



(World Resources Institute, Aqueduct – Water risk atlas より)

### 持続可能な水利用への転換

- ・地下水の過剰な汲み上げの抑制
- ・漏水防止など水の利用効率の向上
- ・水資源の管理運用能力の向上

### 海外水インフラ事業の推進

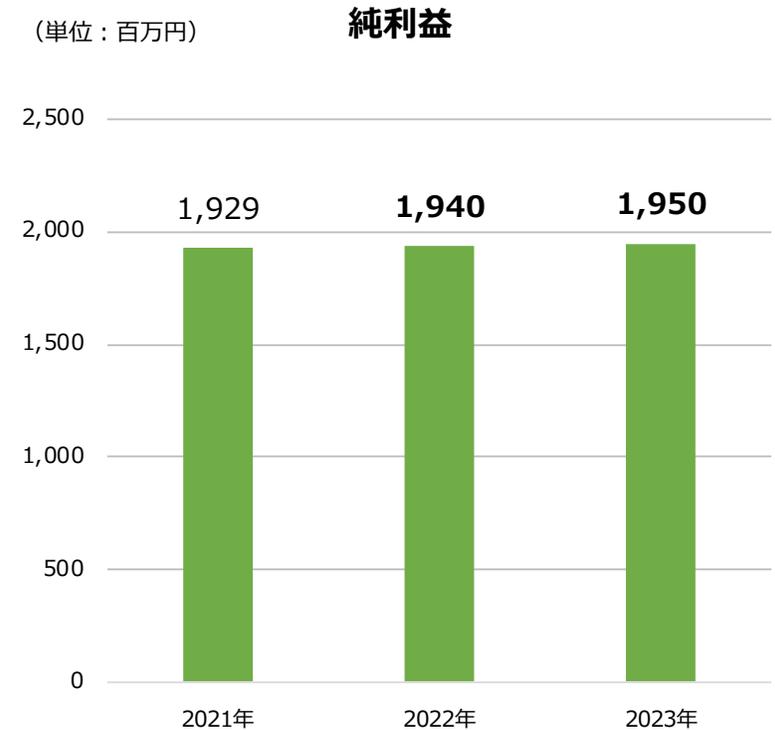
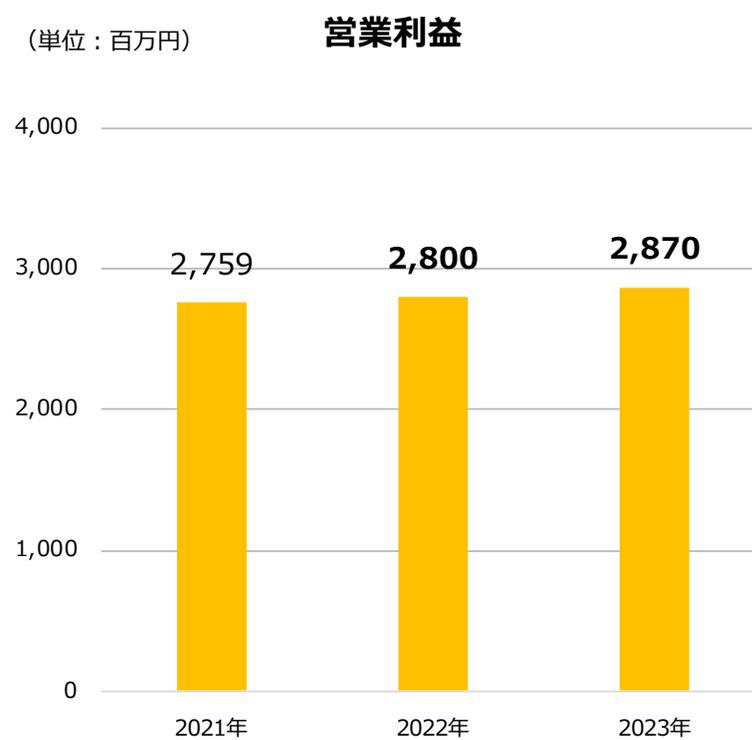
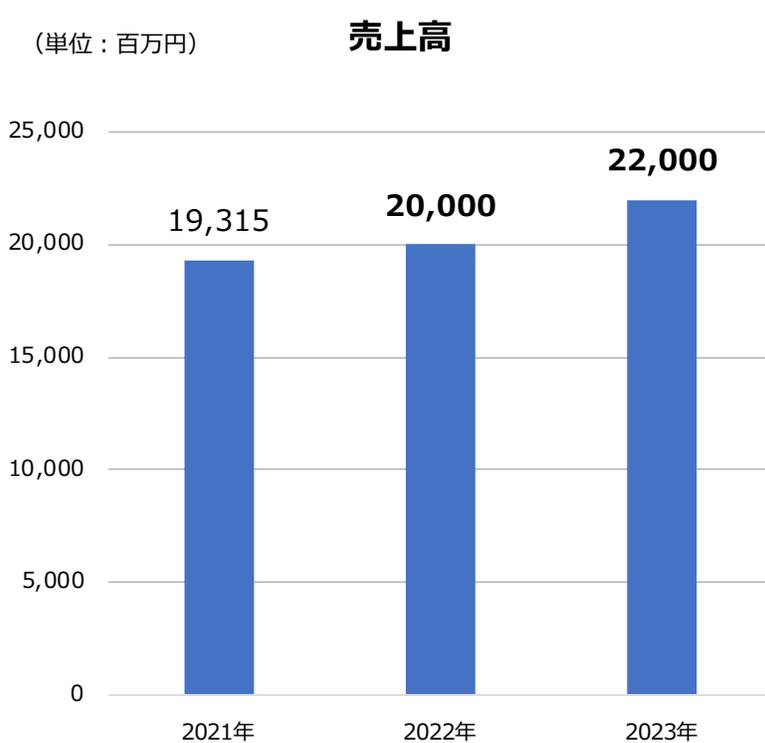
### 安全な水と衛生を確保する事業の推進

- ・上下水道インフラを整備する事業
- ・既存インフラの調査とリハビリの推進



### 持続可能な水インフラの整備

- ・現地のクライアント、企業、関係者との連携
- ・現地のインフラマネジメントの人材育成支援



施設更新コンサルティング、雨水マネジメント、インスペクション、オペレーション、カーボンニュートラルの各業務の受注拡大に取り組み、**2022年**期の売上高は**200億円**、**2023年12月期**は**220億円**を見込む。

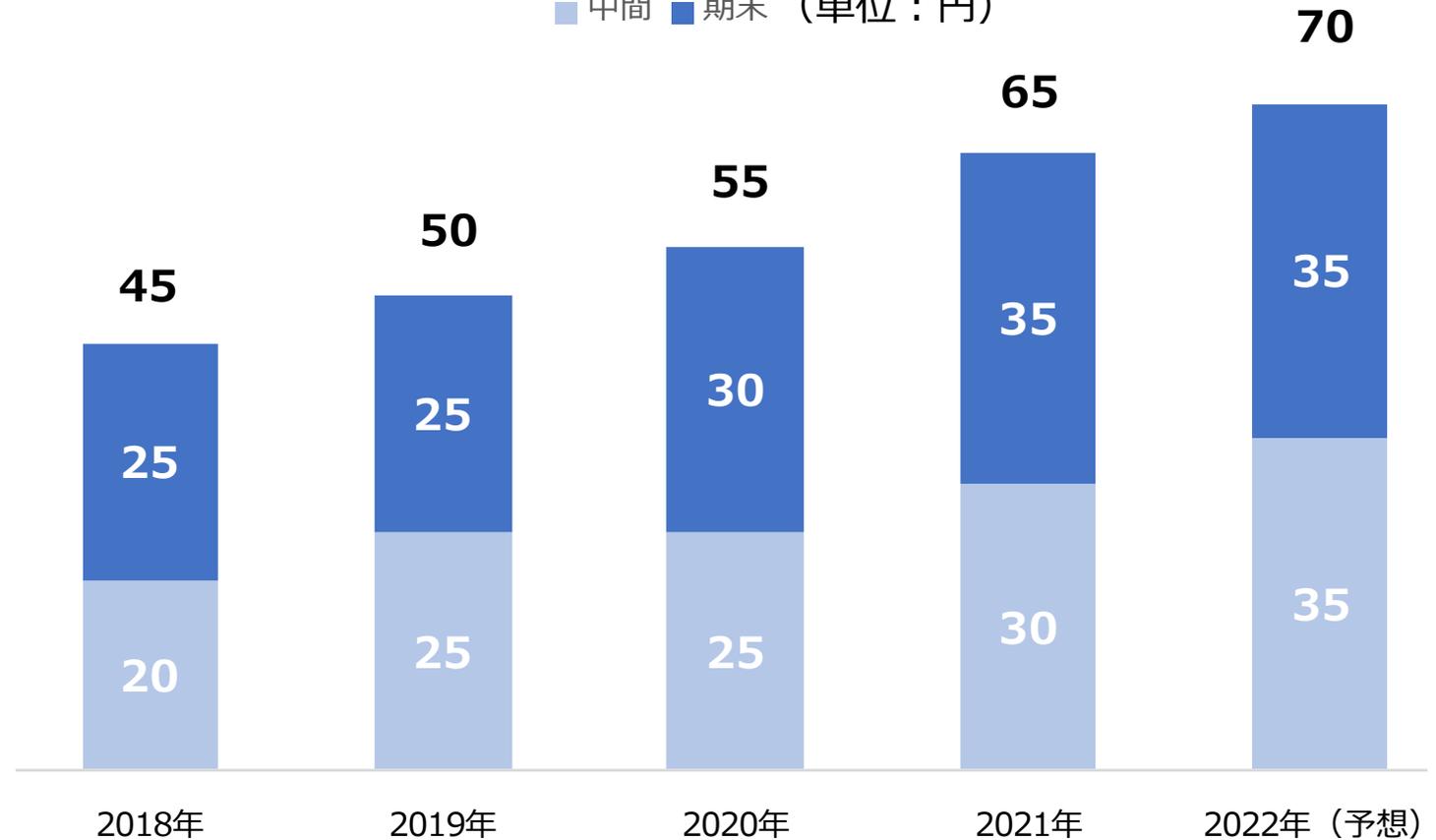
利益は、新事業開拓に関する投資費用の増大が見込まれるが、業務効率化に取り組み過去最高益となった**2021年**期を超える見通し

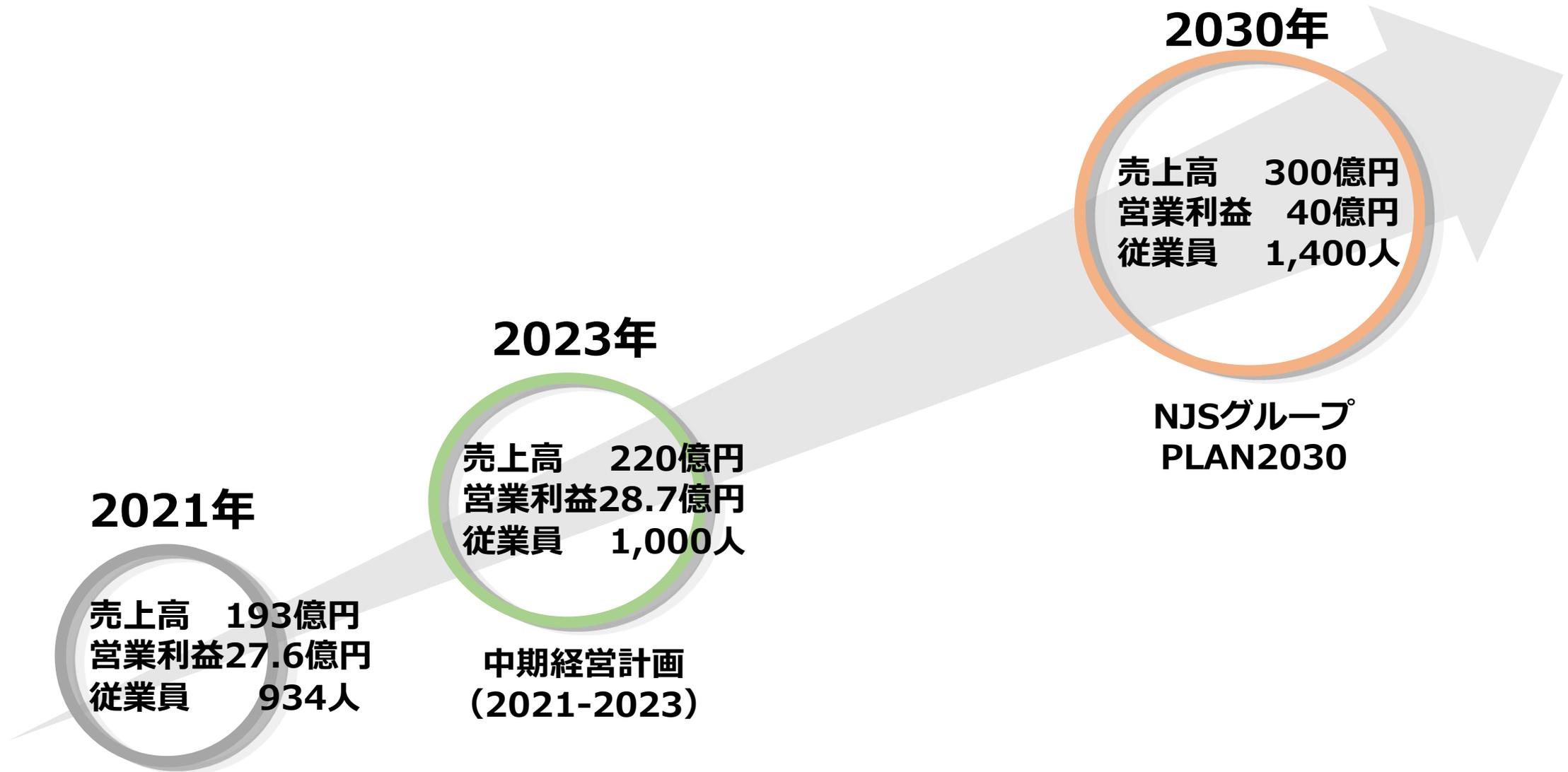
● 2021年12月期期末配当は  
前期比+5円/株の35円

● 2022年12月期通期配当予想  
前期比+5円/株の70円  
(中間35円/株、期末35円/株)

## 1株当たり配当金

■ 中間 ■ 期末 (単位:円)





# 安全、迅速、高解像度



2017

- 下水道管路等の閉鎖性空間を飛行する調査用ドローンをACSLと共同開発
- 試作1号機の試験飛行成功



2018

- 国土交通省第2回インフラメンテナンス大賞特別賞受賞
- 下水道管渠の点検・調査手法に関する共同研究を横須賀市と実施



2019

- 複数の自治体において下水道、農業用水路の調査実証を実施
- 水力発電所鉄管調査サービスの運用を開始

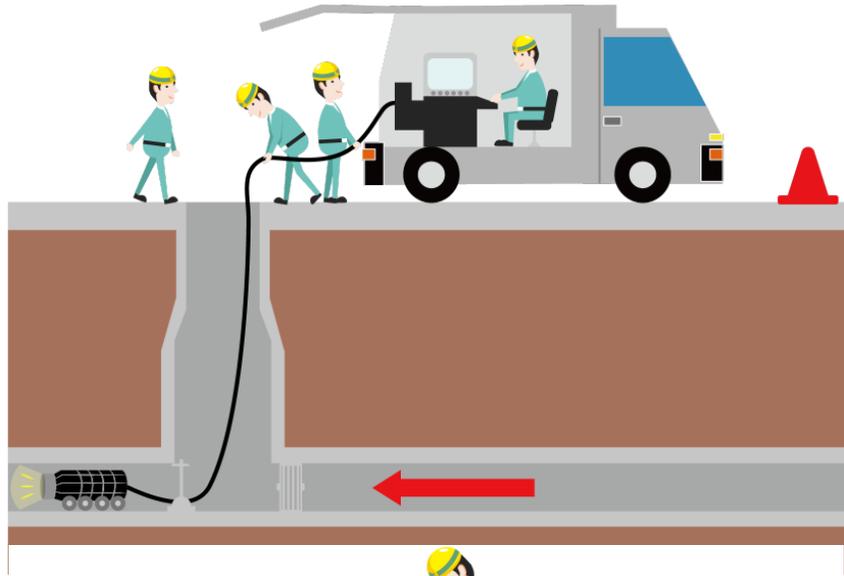
2020

- 農業分野における施設管理用のドローンとして運用開始

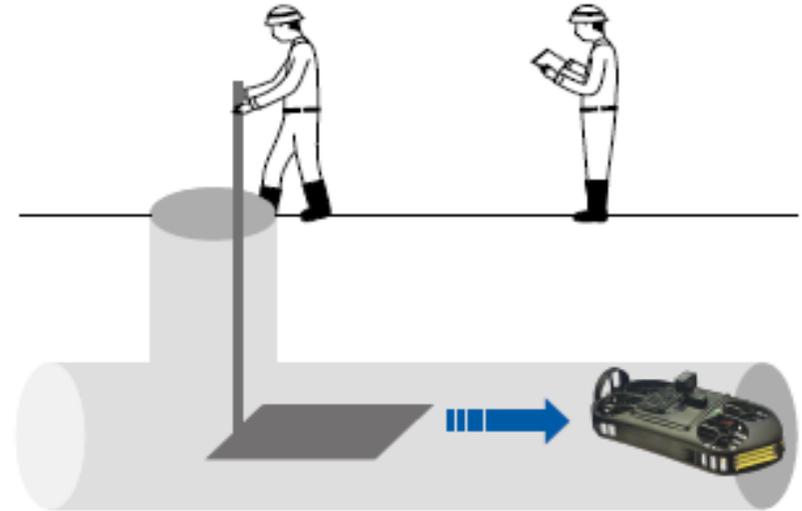
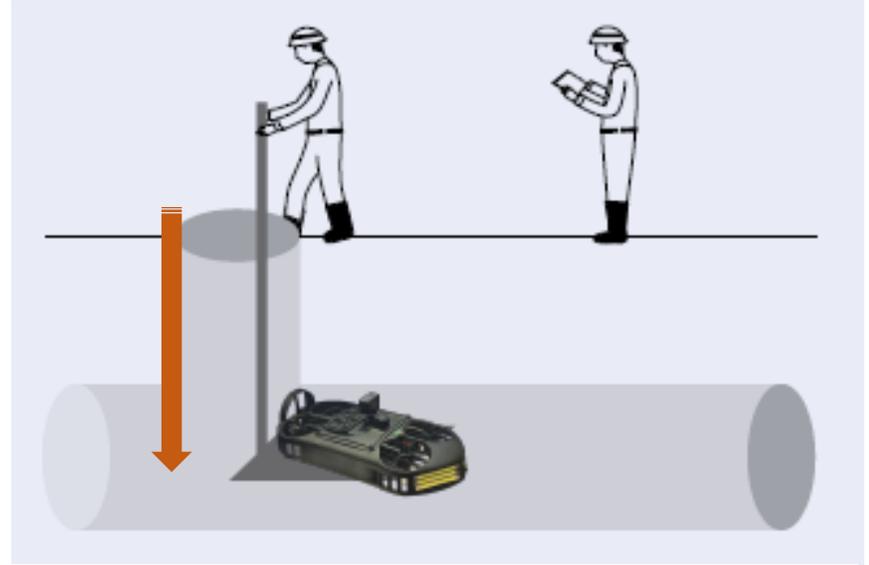
2021

- エアスライダー-Fi4完成、サービス開始

# 5 技術紹介 (従来技術との比較)



従来技術



エアスライダー

## 従来技術との映像比較



従来技術



AirSlider調査 (飛行式カメラ)





## 5 技術紹介（ウォータースライダー調査実施状況）



## 点検調査実績 (2021年期)

	都市名/施設名	口径	延長 (m)	フライト 回数	延長計 (m)
下水	H町	Φ450mm、Φ40mm	570.1	1.0	570.1
	S市	Φ1,350~Φ1,500mm	330.0	1.0	330.0
	N市	Φ400mm	174.0	1.0	174.0
	M市	Φ1,000mm	261.5	1.0	261.5
	T市	Φ600mm	39.7	1.0	39.7
	T市	Φ400mm	83.0	1.0	83.0
	H流域下水道	Φ1,200~1,650mm	3,500.0	1.0	3,500.0
	小計			4,958.3	
農水	A地区	Φ1,500mm	150.0	3.0	450.0
	A地区	Φ1,500mm	430.0	2.0	860.0
	B地区	□900mm x 660mm	12.0	2.0	24.0
	A貯水池排水管	Φ600mm	64.0	2.0	128.0
	小計			656.0	

	都市名/施設名	口径	延長 (m)	フライト 回数	延長計 (m)
電力 水力	A発電所	Φ900mm	8.2	3.0	24.6
	B発電所	Φ2,500mm	126.0	3.0	378.0
	C発電所	Φ600mm	461.6	3.0	1,384.7
	D発電所	Φ1,200mm	88.3	3.0	264.8
	E発電所	Φ1,200mm	292.1	3.0	876.3
	F発電所	Φ1,200mm	203.1	3.0	609.2
	G発電所	Φ700~Φ1,200mm	68.9	3.0	206.8
	H発電所	Φ2,800mm	82.0	3.0	246.1
	I発電所	Φ1,500mm	390.6	3.0	1,171.8
	J発電所	Φ4,850~5,200mm	20.2	3.0	60.6
	K発電所	Φ4,600mm	97.4	7.0	682.1
	L発電所	Φ2,200mm	468.1	3.0	1,404.2
	M発電所	Φ900mm	598.4	2.0	1,196.8
	L発電所	Φ2,200mm	468.1	2.0	936.1
	I企業庁A発電所	Φ1,000~Φ2,000mm	701.9	5.0	3,509.5
T企業庁A発電所	Φ2,800mm	80.0	12.0	960.0	
小計			4,154.9		13,911.7
合計			<b>9,769.2</b>		<b>20,332.0</b>

# ご清聴ありがとうございました

æNJS

お問い合わせ先

株式会社NJS 企画広報室

✉ [njs\\_corporate@njs.co.jp](mailto:njs_corporate@njs.co.jp)

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。  
また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。